

中井商工

中井商工株式会社
技術設計部技術課主任

中平 昌孝氏

昨年50周年を迎えた中井商工(大阪市、宮崎正治社長)は創業以来、橋梁メンテナンスに注力し、製品開発・製造から現場施工まで一貫して手掛けってきた。主力製品である伸縮装置の止水材、「ハヤシールNS」の成分を改良し、斜張橋などのケーブルの角折れ防止や制振材として「ケーブルバッファーアーH」を開発。名だたる長大橋で採用を増やしている。同社技術部門の中平昌孝主任に、開発の経緯・採用実績などを聞いた。(片山宏美)

長大斜張橋ケーブル緩衝・制振設計に採用増

「ケーブルバッファーアーH」が好調

四架橋生口橋で角折れ緩衝材として採用いただき、場合はより素早く減衰した際、ケーブルの振動減衰性能を有する仕組みです。

さらに05年、東海環状自動車道の豊田アローズブリッジの詳細設計時に「ケーブルバッファーアーH」を開発し、同橋には斜張橋ケーブルが構造上抱える曲げ疲労への懸念がありました。斜張橋は主塔から斜めに張った複数のケーブルで主桁を直接吊つて弾性的に支持する形式の橋です。しかし反面では、斜めに張られたケーブルは活動による荷重の変動による影響で定着部に繰り返し角を打つことがあります。

中平主任 開発の背景には、斜張橋ケーブルが斜張橋の経緯から影響でケーブル振動発生の懸念がありました。斜張橋は主塔から斜めに張った複数のケーブルで主

材として伸縮装置の「止水S」を伸縮装置の「止水S」として展開してきましたが、その成分を調整してわが国で初めてケーブルの「角折れ緩衝材」として「ケーブルバッファーアーH」を開発し、同橋にご採用いただきました。主塔と主桁にケーブルの「角折れ緩衝材」で、ケーブルの変位や振動幅が抑えられ、ケーブル定着点の二次応力が緩和されるという仕組みです。

その後、91年開通の本通長江公路大橋などと、名門大橋、山口県の周辺のほか、大阪府の鳥飼仁和寺大橋、山口県の周辺のほか、来島大橋、愛媛県の岩城大橋、本四架橋では生口橋のほか、来島大橋、多くの陸地整の新湊大橋、東北海外では韓国の仁川大橋、ベトナムではカントン橋、香港のストレイン橋、香港のストーン

橋の耐震補強工事のタイ

ーH」の状態を自視観察しましたが、目立った傷みは無く良好でした。

——「ケーブルバッファーアーH」の特徴は

中平 第一に優れたゴム弹性と粘弹性です。用途は斜張橋などのケーブル緩衝・制振・保護材として、お客様のご要望に応じて改良してまいりました。

——今後の展開は

中平 今まで多くの長大斜張橋に採用され、業界の皆様に一定の評価をいただいていると自信しております。

最近は発注者様、設計会社様もケーブル保護の分野においてフェールセーフ(※)の考え方を用いておられるようになっており、装置の経年劣化も

——「ケーブルバッファーアーH」を併設いた

きましても「ケーブルバッファーアーH」を併設いた

りますし、想定外のケーブル運動が発生しても装置が壊れないように、また壊れた場合でも重大な被害に繋がらないようになります。

——「ケーブルバッファーアーH」を併設いた

りますし、想定外のケーブル運動が発生しても装置が壊れないように、また壊れた場合でも重大な被害に繋がらないようになります。